

6. 「里浜づくり」の活動事例による活動内容の例

〈できることからはじめ、活動を継続している事例：琴引浜の例〉（前出）

琴引浜は、「日本の渚百選」「残したい日本の音風景百選」に選定されている、日本を代表する白砂青松の海岸である。ここに、琴引き浜の鳴り砂を守る人々がいる。鳴き砂とは砂の粒子の大きさや純度により、踏むと「キュッキュッ」となる砂のことである。琴引浜の鳴き砂を守る活動は、20 年前、地域の数人の人々が、月 1 回ゴミを拾おうというところから始まった。現在では、活動が始まった時には子どもであった人が中心になり、活動に賛同してくれるミュージシャンとともに、海辺で拾ったゴミを入場券代わりにした音楽祭「はだしのコンサート」を開催したり、全国鳴き砂サミットを開催したり、鳴き砂を守る仲間を拡大し、情報を発信し続けている。



琴引浜

《活動内容》

- ・ 海岸での喫煙、花火、キャンプ、炊飯の禁止等の規制を行う条例の制定。環境保護団体の認定及び当該団体によるパトロール
- ・ 「はだしのコンサート」の開催（上述）
- ・ 「クリーンビーチカップ」（日本プロサーフィン大会）を実施（デポジット制の採用、環境保全に配慮し、環境保護と地域振興がねらい）

〈志を同じくする人々の募金で活動する事例：はかたの夢松原の会の例〉

NPO 法人はかたの夢松原の会は、昔は松原のあった博多湾の随所に、毎年平均 1000 本ずつの植樹を続ける団体である。

活動は、1987 年から始まり、活動に賛同する人々による募金「松苗募金」により活動資金を募り、活動を行っている。今では全国から募金が集まる。また、玄界灘や響灘の沿岸に今なお残る白砂青松の美しい風景を守り、自然・歴史・文化を生かした「まちづくり」を進めたいという願いを共有する 10 の団体とともに、「沿岸松原サミット」を平成 10 年以降毎年開催し、情報を広く発信し続けている。サントリー財団などからも資金援助を得るなど、賛同者を増やしている。



松苗植樹（海ノ中道海浜公園）

《活動内容》

- ・ 毎年 1000 本の植樹
- ・ 「ともに語ろう海と文化」検討会の開催
- ・ 「船上フォーラム・博多湾一周」の開催
- ・ 「沿岸松原サミット」の開催

〈異なる立場の人々が議論し、里浜活動を実施している事例：中津港海岸の例〉（前出）

水辺に遊ぶ会は、平成 11 年に設立され、昔の海と人との関係を取り戻すことをコンセプトに、中津港海岸で自然観察会、干潟生物の学術調査、学校での環境学習の手伝いなどの活動を行っている。現在では年間三千人の人々が活動に参加している。

一方でその活動の舞台である干潟を覆砂する計画が持ち上がった。これに対する各種団体の要望に答えて行政により懇談会が設置され、



大新田地区の干潟

水辺に遊ぶ会を含め、地域住民、自然保護団体、行政、専門家が一同に会して検討が行なわれた。侵食防止の観点から干潟の被覆を主張する側と貴重な干潟の保存を望む側で、頻繁に対話を行い、現在、防護と自然保護の両面から検討した計画案が実施に移されようとしている。こうした過程において、立場を異にする人々が互いにその価値観を認め合い、意見を交換することで、活動の幅が広がり、仲間を増やすことに繋がった。

《活動内容》

- ・ 中津港大新田地区環境整備懇談会
- ・ 大新田地区環境整備協議会
- ・ 干潟観察会、ビーチクリーン（水辺に遊ぶ会）
- ・ 松の植林（地元小学校のPTA）

〈地域の人々が目の前の浜の清掃を始めた事例：方財海岸の例〉

方財町は四方を海に囲まれている。そのため周囲の海を「我々のもの」と考える意識が古来より強い。その海岸に緑地を整備することになった。緑地が出来てから「活用してください」、「管理にご協力ください」と言われても、なかなか区民は理解出来ないだろうということから、公民館や区会は、海岸緑地の竣工4年前から行政各部署と説明会を開催し、海岸緑地を核にしたまちづくりの体制を整えた。竣工後の現在は、イベントなどで利用するほか、町全体で清掃活動を行っている。また、町外からの利用者にも清掃活動呼びかけており、サーフィンを楽しみに来る団体も清掃活動に参加している。現在は、こうした海と地域の繋がりをさらに深めるため、各種イベントを開催している。



《活動内容》

- ・ 海岸清掃
- ・ 小中学生のちりめん漁の体験学習・ちりめん漁講話の開催
- ・ ビーチバレー大会の開催
- ・ 海岸での盆踊り大会の開催
- ・ 小学校、幼稚園における海岸での砂の造形学習

〈観光と結びつけ、アクションを起こした事例：奈半利海岸の例〉（前出）

海岸事業により整備された離岸堤に珊瑚が着生した。この珊瑚の貴重性を再発見が、高知から奈半利町までの後免奈半利線の開通を背景に、奈半利町で高まりつつあった観光事業への意識と結びついた。従来より奈半利町周辺で活動をおこなっていた各種民間団体は、地元の魅力を再発見・活用するというコンセプトのもと再結集し、天然資源活用委員会を設立。珊瑚鑑賞イベントを手始めに活動を開始した。珊瑚鑑賞イベントは、ボートの購入から運行まで、全てメンバーがボランティア行っていたが、少子高齢化や過疎の問題に対応する雇用機会を増大するという目的も含め、事業化されている。



《活動内容》

- ・ 珊瑚ウォッチングイベント開催
- ・ 「地域のみんなで考えよう」シンポジウム
- ・ 珊瑚観光事業

〈活動事例一覧〉

項目	事例
維持管理	清掃活動
	松原巡視活動・松の植林
	海岸台風被害復旧作業
	ライフセーバーによる海岸監視
	ビーチ用車椅子の貸し出し
	海底清掃、海底写真の撮影
	ナショナルトラスト運動
	ビーチコーミング
	海浜性植物の保護・育成・植栽・管理
海辺の文化を知る	地引網体験
	漂着物の観察・収集
	海岸漂着物調査
	海の清掃船乗船会
	海水からの塩づくり体験
	港湾事務所の人にお話を聞く会
	海上保安庁の人にお話を聞く会
海辺の自然を知る	浜、山、川における自然体験学習
	干潟の自然観察会
	カブトガニの産卵・齢幼生観察・幼生の放流
	スナメリ観察会
	現存する鳴き砂の調査
	マングローブの観察・学習・植樹
	稀少生物調査
	オニヒトデ調査および駆除
	稚魚の放流
	干潟の変遷学習
	源流の探索
	河口の生物調査
海辺で遊ぶ	花火大会
	マラソン大会
	ビーチフラッグス大会
	オープンウェータースイムレース(遠泳大会)
	離島からの横断泳
	カヌー体験、カヌーボロ教室
	マリンスポーツ無料体験
	干潟で遊ぶ会
	音楽祭の開催
	プレーパークの実施
	クルージング
	夜の海探検
	かに釣
	磯遊びの会
	投げ釣体験
	貝拾い
	ゴルフ大会
	夏祭り
	ゲートボール大会
	フリーマーケット
	トライアスロン大会
	イカダ大会
	運動会
人材育成	海辺の自然体験活動リーダー養成講座
	ジュニアライフセービング教室
	第二種着衣泳指導員養成講習会

	自然体験教室への講師派遣
	避難訓練
情報の発信	学習発表会
	市民向けの写真展の開催
	海岸環境整備懇談会、協議会
	海の生き物写真展
	観光マップの作成
	観光案内所の運営
海辺を語る	沿岸松原サミット
	海の討論会
	船上フォーラム
	水産物の活用検討会
	「沿岸域環境保全・環境復元と経済効果(仮称)」シンポジウムの開催
	鳴き砂サミットの開催
	なぎさカフェ(浜についての意見交換)